

各 位

平成30年6月1日
山形市野草園 : 山形市大字神尾 832-3
電話 023-634-4120

山形市野草園からのお知らせ



「クリンソウの谷」の橋の周りに咲き誇るクリンソウ

クリンソウ(サクラソウ科)

山地の湿地などに生える多年草で、長楕円形の大きな葉の表面はしわが多いです。花が開く頃に花茎はぐんと伸び、紅紫色の花を5～7段輪生状に多数つけます。日本のサクラソウの仲間では最も背丈が高いようです。クリンソウ（九輪草）は寺院の塔の請花と水煙の間にある九輪に例えて名づけられたようです。

日中の気温が25度を超えるようになり、まさに初夏の風情となりました。野草園の植物たちは鮮やかな花を咲かせ、ますます緑の色を濃くしています。「クリンソウの谷」の湿地では紅紫色や赤色などのクリンソウの花が咲き誇っています。その東側の草地には黄色のニッコウキスゲが咲き始め、谷一面がピンク色と黄色の花でいっぱいです。また「ひょうたん池」の西側にはピンク色のヒメサユリも咲き始めました。今は見頃の花が多いので、6月17日(日)までは休園日なしで連日開園しています。皆様、都合の良い時間を見つけて、野草園の散策に来てください。忙しい日常を忘れ、樹木や草花の美しい花を眺めながら自然の中でゆったりとした時間を過ごして下さい。

※開園時間延長のお知らせ

6月～8月は、午前9時から午後6時まで開園します。

(入園は、午後5時まで)

野草園の6月のイベント予定

◆【第24回 写真コンテスト入賞作品展】 6/2(土)～7/1(日)

○内 容 昨年度の写真コンテストで入賞した作品を展示

○場 所 野草園 自然学習センター内

◆【ガイドウォーキング】

○期 日 6/2(土)、3(日)、9(土)、10(日)、17(日)、24(日)

○時 間 : ①10:00～11:00 ②11:00～12:00 ③13:00～14:00 ④14:00～15:00

○内 容 : 植物に詳しいスタッフが、お客様に園内の植物を説明しながら一緒に歩きます。植物を見る目が変わりますよ。(予約不要、無料)

◆【山野草の育て方教室】

○日 時 6月19日(火) 10:00～12:00 講師 : 蔵王園芸店 佐藤 祐一 氏

○内 容 ヤマアジサイ2品種(手毬咲き、移り紅)の鉢植え

○場 所 自然学習センターピロティ

○対 象 先着13名 ○参加費 材料代2000円 (入園料別)

○申込み 電話で野草園まで Tel 023-634-4120

◆【四季観察会 ②】 ～シダ植物～ 講師 : 佐竹恵一 氏

○日 時 6/27(水) 10:00～12:00 –(昼食)– 13:00～15:00

○内 容 この季節のシダ植物などについて学びます。

○場 所 野草園内

○対 象 先着20名

○申込み 電話で野草園まで Tel 023-634-4120

○参加費 資料代100円(入園料別)

◆【ホタル観察会】

○日 時 6/29(金)～7/1日(日)、 7/6(金)～8(日)

19:30～20:30 (受付 19:00～19:30)

※小雨決行、悪天候の場合は中止となります。

○内 容 主にゲンジボタルとヘイケボタルを鑑賞して楽しむ。

○持物・服装 長袖、長ズボン、雨具 ※鑑賞中、懐中電灯は使えません。

○対 象 各日、先着80名程 ○参加費 無料(入園料別)

○申込み 電話で野草園まで Tel 023-634-4120

●●●6月前半に見られる主な花たち●●●



カンボク(スイカスラ科)

枝先にガクアジサイに似た花をつけます。周囲は5裂した白い装飾花で、中央が両性花(雄しべと雌しべのある花)です。葉は対生で柄があり、卵形で3つに浅く裂けています。花の後にできる実は球形の核果(水分を多く含み中に種が1つある)です。赤く熟し、葉が落ちた後もそのまま残りますが、まずくて鳥も食べないようです。



デマリカンボク(スイカズラ科)

カンボクは両性花のまわりに白い大きな装飾花がついていますが、本種は装飾花ばかりからなり、ボール状に集まってついていることから手毬(てまり)の名がつけられたようです。肝木(かんぼく)の方は、植物を薬用に用いたことから、人の命に関わる肝要な木ということで名づけられたそうです。



ホタルカスラ(ムラサキ科)

乾いた草地や林縁に生える多年草です。1 cm程の小さい花ですが、ムラサキ科の中では一番大きいそうです。蛍光を発しているような青い色の花は遠くからでも目立ちます。そこから、ホタルの名がつけました。そして、花後に根もとからつるが出てきて新しい株をつくるので“カズラ”の名が付けられました。



カキツバタ(アヤメ科)

湿地に生育する多年草です。ヒオウギアヤメやノハナショウブに先がけて咲きます。葉の幅が広く中肋(中央に通る太い葉脈)はありません。花茎の先に青紫色の花をつけ、花びらの中央基部には白色の条紋があります。カキツバタの名の由来は「書き付け花」がなまったものだそうです。



サワオグルマ(キク科)

本州～九州の湿原や休耕田などの湿地に生える多年草です。茎が太く中空で高さが50～80cmです。根生葉はへら状披針形ではじめはクモ毛が密生します。茎葉は卵状披針形で基部は茎を抱きます。茎の先端に直径3～4cmの黄色い頭花を散房状に多数つけます。



チョウジソウ(キョウチクトウ科)

湿った草地に生える多年草で、茎は直立して上の方で枝分かれをします。葉は互生し披針形で先はとがります。茎の先端に多数の花をつけます。花は青紫色で下部は筒となります。上部は5裂して平らに開き、裂片は狭長楕円形です。名は「丁字草」で横から見ると花の形が丁字に似た草だからそうです。



キタマムシグサ(サトイモ科)

高原～山地の林の下などに生える高さ 30～80cm の多年草です。従来、コウライテンナンショウと呼ばれていた植物ですが、仏炎苞の舷部がよりヘルメット状に膨らみ、白条が広がって半透明になるという形質で前種とは区別できます。太い茎が直立し、茎の皮が蛇の体のうろこに似た感じなので名がつけられたようです。



サラサドウダン(ツツジ科)

深山の林内や林縁、岩場に自生する落葉低木です。ドウダンツツジの仲間では最も北方まで分布するそうです。花は淡紅白色で紅色の縦の筋があります。この更紗のような模様が名の由来になっているようです。白いドウダンツツジと花の形は似ていますが、壺形にならないで先が広がり鐘形のところが違うようです。



ベニサラサドウダン(ツツジ科)

中部地方北部～東北地方南部まで分布する落葉低木です。花は鐘形で、下向きに咲き、紅色の花には濃紅色の縦の筋が入ります。サラサドウダンに比べ、花はやや小さく、色は濃いです。近くに咲く同じ仲間のベニドウダンは、さらに花は小粒で、色は濃くなります。



ヒメサユリ(ユリ科)

新潟県と東北地方南西部の高山に生える多年生草本です。ササユリに似ていますが、草丈が少し低くて、雄しべが外に出ないという違いがあります。漏斗状鐘形でピンク色の花を茎の先に 1～2 個つけます。名の由来はササユリに似ていて小形であるからのようです。別名オトメユリは、可憐さを表しています。



ニッコウキスゲ(ススキノキ科)

本州の中部地方以北の山地に生える多年生草本で、草原に群生することがよくあります。花茎の先に黄色いオレンジ色の花を 3～4 個つけます。花は朝開いて夕方にはしぼむ一日花で、漏斗状の鐘形です。若葉や花のつぼみはおいしいらしく、動物などにも食べられます。



フタリシズカ(センリョウ科)

山野の林内に生える多年草です。ヒトリシズカの葉が4枚でほとんど同じ所から出るのとは違って、葉はやや接近して対生します。白い米粒のようなものが1個の花で、たくさん付けた花穂を2本付けることが多いので、ヒトリシズカに対してフタリシズカです。二人の姿とは、舞を舞う静御前と幽霊といわれています。



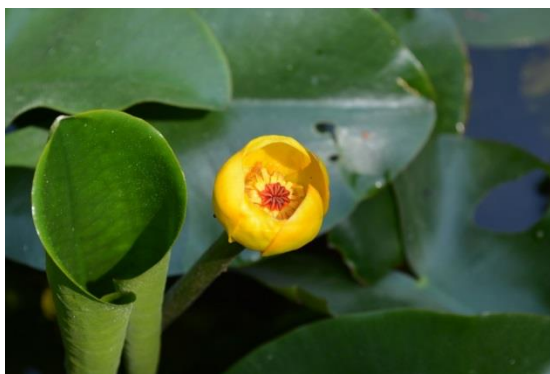
ヤマボウシ(ミズキ科)

各地の山野に普通に自生する落葉高木で、ハナミズキに花や葉は似ています。花びらのように見えるのは苞で、その中心にある淡黄緑色の小花が20～30個密集した丸いものが花序です。小花は、花弁と雄しべが4個で雌しべは1個です。秋に果実は赤く熟します。名は丸いつぼみの集まりを坊主頭に白い苞をそのの頭巾に見立てました。



オオナルコユリ(キジカクシ科)

北海道～九州に分布する多年草で比較的明るい落葉林の下などに生育します。同属のナルコユリやミヤマナルコユリに比べて大形で、茎の高さが1m程、葉の長さは30cmにも達し弓状に曲がります。細い花柄の先に、6枚の花被片が合着した筒状の花を2～4個つけ、数組が垂れ下がります。この垂れ下がる花の様子を鳴子に見立てたことが和名の由来とされます。



オゼコウホネ(スイレン科)

高山や北地の池沼に生える多年生の水草です。水に沈んでいる葉と水面に浮かぶ葉があり、水面の葉は深く切れ込みがあります。長い花茎を水面に出し、黄色の花を1個開きます。黄色の花弁のように見えるのは萼片で、内部に小形の花弁があります。コウホネとは雌しべの柱頭盤が赤いことで区別できます。



マルバダケブキ(キク科)

深山のやや湿り気のある草地や林縁に生える多年草です。葉はフキに似て長い柄があり腎円形です。茎の先に大きな黄色の花をつけます。花は大形の舌状花が10個程あって中心には筒状花が多数集まります。同じ仲間のトウゲブキに似ていますが、花も葉も大きいです。



スイレン(スイレン科)

水底の土中に根と地下茎があり、葉と花は水面に浮きます。スイレン属は花が美しいのでよく栽培されます。葉の形は円形で一方が深く切れ込み、花弁と雄しべは多数あり、雌しべは合生して柱頭は放射状になります。「睡蓮」の名は「朝に花が開いて夜に閉じる」つまり、睡る蓮ということでした。



ホオノキ(モクレン科)

落葉高木で、高さは30m以上になるものもあります。葉は長さ20～40cmにもなり、倒卵状楕円形で全縁です、そして裏面は白い粉を帯びています。互生しますが、枝先に束生し、輪生状に見えます。花も大型で白い花が真上に向かって開花し芳香があります。花びらがらせん状に配列し、萼片と花弁の区別も明瞭ではありません。



スモークツリー(ウルシ科)

別名はハグマノキ、雌雄異株で3mmほどの小さな淡緑色の花を穂状にたくさん咲かせます。花後、雌株は不稔花(タネを結ばない花)の軸部分(花柄)が長く伸びて羽毛のようになり、花穂の見た目がもふもふした感じになります。名前は、この花穂が煙のように見えるところに由来します。果実が風に乗ってより遠くに飛ばされるように、花柄が羽毛状に伸びるとも言われています。



ガマスミ(レンブクソウ科)

日当たりの良い山野や林縁などに生えます。幹は株立ち状になり、太い幹は4cm程になります。葉は対生し、形は広卵形から円形です。縁には浅い鋸歯があり、葉の両面に毛があります。本年枝の先から、散房花序を出し、白い小さな花を多数付けます。



ムシャリンドウ(シソ科)

茎先に青紫色の花をまとめてつけ、花の長さは3cmくらいで、唇形です。筒部は太く、下唇が発達していて、濃い紫色の斑が入り、羅生門蔓(ラショウモンカズラ)にやや似ています。下部の葉には柄があり、披針形です。葉は幅の広い線形で、向かい合って生える対生です。